

発掘現場から⑥

「門前鎮守山城跡の調査速報 その2」
門前鎮守山城跡の調査速報 その2



堀切の発掘作業

(*) の中に埋まつた土を掘り返したり、土壘 (*) を掘り下げるなりの発掘作業は大変でした。何しろ急斜面ですから、土を出すにもベルトコンベアーが使えません。そこで、一列に並んだ作業員さんが手箕 (*) に入れた土を手渡しでリレーし、斜面に取り付けた自家製の長い滑り台を使って土を下に流し、その土は運搬用の一輪車で受け止めて土捨て場まで運びました。山城を築いた時代と比べ物にならないのでしょうが、それでも当時の過酷な労働を偲ぶには、現代の私たちにとっては十分すぎるほどでした。

これは今から700～800年ほど前（鎌倉時代）に、造成工事に先立つてとりおこなわれた地鎮めのまじないのあとではないかと考えています。倉吉市大谷の中尾遺跡では土器の羽釜（*6）の下に土師器の杯 1 枚が納められています。

山城の東側斜面の中腹から裾野にかけて大規模な造成工事が行われていたことは9月号でお伝えしましたね。斜面中腹の造成土をざくざく掘り下げていたら、作業員さんの振るった鍬の先でガチンと音がしました。それから丁寧に掘り下げたところ、大きな鋳物の鉄鍋がまるごと出てきました。大きさは直径が40cm、深さが20cmで、これまで県内で出土した中では最大です。鉄鍋はそれと同じくらいの大きさの穴の中に伏せた状態で埋まっていました。鍋底の中心には穴があいていたようです。鍋の内側にたまつた土を取り除いていくと、土師器（*4）の杯（*5）が3枚重ねで2組の合計6枚と、中国の北宋（960～1125年）の時代の銅錢（聖宋元寶：初鑄1101年）が1枚だけ出土しました。こ



鉄鍋の中の様子（円内は銅錢）

鉄鍋の中から出た銅錢

用語解説

- * 1 堀切：尾根の伸びる方向を断ち切るように掘られた堀のこと。
- * 2 土壘：土を盛り上げた防壁のこと。堀切とともに山城の防御施設である。
- * 3 手箕：穀類をあおって殻・塵などを分け除く農具。
- * 4 土師器：古墳時代から中世にかけて製作された素焼きの土器。
- * 5 杯：考古学的な土器の分類で、皿よりも深いお椀形の容器のこと。
- * 6 羽釜：周囲につばの付いた、煮炊き用の容器。